

## 1. 第2回女川町復興計画公聴会の実施結果について

日 程	時 間	開催場所	参加者数
7月20日(水)	15:00~16:30	海 泉 閣	103人
	18:00~20:00	二小1階音楽室	36人
7月21日(木)	14:00~16:00	女川高校武道館	102人
	18:00~20:00	女川町復興連絡協議会会館	42人
7月22日(金)	10:00~12:00	旧三小多目的ホール	88人
合 計 (5会場)			371人

## 《参加者》

## 女川町復興計画策定委員会

会長 鈴木 浩、副会長 木村拓郎

委員 木島明博、福留邦洋

アドバイザー 首藤伸夫、今野順夫

女川町 安住宣孝女川町長、総務課長、企画課長、建設課長、水産農林課長、  
商工観光課長、企画課復興推進室

## 2. パブリックコメント《女川町復興計画(案)復興基本計画(骨子)及び復興基本計画図(案)》

- (1) 募集期間 平成23年7月20日~29日
- (2) 募集方法 ①郵送、②ファックス、③電子メール等
- (3) 募集周知 マスメディア(地元新聞)、女川さいがいエフエム、インターネット  
(女川町ホームページ)、周知チラシ配布(避難所、仮設役場庁舎内)
- (4) 意見総数 115件(72名)
- (5) 回 答 女川町ホームページ内において公開予定

## 第2回公聴会での要望と反映

1回目. 7月20日(水) 15:00~16:30 海泉閣			
	内容	ご意見	復興計画への反映・対応
1	集約化、 高台移転	集約化はもう少し検討していただきたい。(高 白住民)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集約化についての記載は削除。</li> <li>・代わりに【短期対策】として</li> <li>③新たな漁村づくり</li> <li>④個性ある漁村の復興</li> </ul> を明記させていただきました。 ⇒62 ページ 3.住みよい町づくり《住環境》 (3) 離半島部の安全な居住地の確保
2		集約化のメリット・デメリットが示されてい るが、デメリットの方が大きい。どの部落で も高台移転には誰も反対していない。ただ、 今まであった集落というものをぜひ守って もらいたい。各集落で高台は確保できる。	
3		小屋取地区は 20 世帯中 10 世帯が被災を免れ ている。残存する 10 世帯は今の場所での居住 を希望しており、被災した世帯が集約される 地区に移転してしまうと、これまでのコミュ ニティが損なわれてしまう。現存する家があ る背後に、被災した世帯が住めるようにして もらいたい。	
4		塚浜地区の新集落の検討をする前に、地元住 民の意見ももっと取り入れてもらいたい。集 落の背後地に土地があるのでそちらに移転し たい。  飯子浜地区は計画では港の右側に新集落を作 る案になっているが、この場所は風があたっ てしまう。現在の部落の上に土地がある。水 道もあるのでそちらの方に移転をしてもら いたい。	
5		大石原地区は 6 軒程度の家があり、地区内の 仮設住宅に 5 世帯が入居している。仮設の土 地以外にも十分な住宅地がある。先祖が残し た土地に家を建てたい。	
6		横浦地区で示されている新集落の候補地は、 地主も理解している場所であるので、今回 の案で問題ない。	
7		漁業者が多いため海を中心とした考えになる と、漁業を営む上で利用価値がある海や価値 がない海があり、利用価値がない海の地区と、 利用価値がない海の地区が集約化した場合は トラブルの元になる。	
		高台に移るというのは賛成ではあるが、若い	

## 第2回公聴会での要望と反映

		人たちが何人残るかという部分が問題である。高台に移ったとしても、そもそも女川にいて何かメリットがあるのかという話が出ている。両氏をやるなら、高台ではなく今住んでるところがいいと思う。	
8	人口減少	水産業を営まない人は、集約化により町を出ていくようになり女川町の人口の減につながると思う。	
9	公営住宅	仮設住宅の環境が厳しく、坂の上の方にあるため、病気をしている高齢者の家族を乗せて移動することが困難である。復興住宅の建設や造成地の工事を早急に進めてほしい。	既に復興計画に明記。 ⇒66 ページ (4) 恒久住宅の供給・再建 【短期対策】
10	災害遺構	生涯学習センターを津波の遺跡として残してほしい。	
<b>2回目. 7月20日(水) 18:00~20:20 女川第二小学校</b>			
1	嵩上げ	嵩上げについては具体的な高さを明確にしてもらえれば、どこに住むべきか決めることができる。たま、産業の再生も必要であり、防災を優先するのか生計を優先するのか優先順位を決めて進めていただきたい。そうすれば若い人も公聴会に参加するだろう。自分たちが発言をしても意見が通らないという考え方の町民がいることも事実で、個別の意見を吸い上げるような進め方が非常に重要である。	
2	他の課との連携	女川町は多くの職員がいるため、各課の意見をきく必要があるのではないかな。	
3	若者の意見反映	女川町は年配者の方々の意見を尊重しやすい地域である。公聴会の年齢制限を企画するというのも1つの手である。同年代の青年であれば、さまざまな青年団活動等をしているため、思い切ったプランなども出てくるし、自分たちの気持ちもストレートに出てくると思う。	
4	運動公園	資料の3ページの丸ポツの2つ目ですが、総合運動場の移転が示されている。一方4ページでは、居住施設については現運動公園周辺と書いてあり、整合性がとれていないように感じる。	誤解を招かないように、「周辺」の文字の削除するべきかもしれないと、鈴木会長から公聴会でご指摘があった。 (概要版の資料について)

## 第2回公聴会での要望と反映

		若い頃から野球やソフトボールなどさまざまなスポーツ活動を行ってきた。今回の震災によって残った町民の財産は運動公園のみである。住民のコミュニティーの形成のためにも、あるいは児童生徒の学校教育の活用のためにも、この財産は残すべきだと思う。	委員会で検討？
		ソフトボールについては、昭和47年に県の高校総体をはじめ努力を続け、三十数年かけてソフトボールの町と称されるようになった。我々にとっては財産である。また、全国の皆さんから柔道の町女川と言っていただくために、ソフトボールと同じように苦勞してきた。運動公園にはさまざまな施設があり、特に第2多目的運動場や総合体育館は可能な限り残していただきたい。	一部の使用可能な施設は、地域住民の交流の場として残していくことも検討と明記。
	計画	若い人が意見を出しにくいという話が出たが、押さえつけられているというだけでなく、これまで町をつくってきた人たちの意見を尊重したいという思いもある。また、今回の復興計画は、8月10日という期限があるが、共同で作っているという関心を持ってもらうことが重要である。最近まで復興を考える余裕がなかったが、気持ちに余裕があればこういう会にも参加しようとは思わない。例えば期限について、8月10日に出来上がることが大事なのではなくて、今から意見を集めようとしていることが大事だという意味で、変更も可能なのではないか。	
<b>3回目. 7月21日(木) 14:00~16:20 女川高校</b>			
	地盤沈下、冠水	浦宿、針浜、大沢の安住など海際の方は、高潮で長靴を履かなければ家に入ることができない。たとえば、浦宿と針浜にある川を止めて、満潮時にポンプでくみ上げれば解決できる。具体的な計画を考えていただきたい。	追記済。 ⇒37ページ 1. 安心・安全な港町づくり《防災》方針、【緊急対策】
		浦宿、針浜、安住など地盤沈下した3つの部落については、委員会で取り上げていただけるか。	復興推進地域に入れるかどうか検討すべき？

## 第2回公聴会での要望と反映

原発	<p>福島原発のことを考えると、脱原発を目指して、電力資本が再生可能エネルギーに進出してこそ、私としては女川町を守れるし、漁民も守れる。津波の来る女川、原発のある女川からは町を捨てて出て行ってしまいうだろう。10年後には4,000人程度になってしまうかもしれない。十分に考えていただきたい。</p>	
原発	<p>原発に依存しながら今日まで来ているのに、この資料の中には一言も書いていない。女川で福島のような事故が起きたら復興計画どころではない。資料の5ページに、自立型エネルギーが示されているが、はっきりと原発廃炉を明記して、身の丈に合った地方自治本来の姿に戻ってほしい。</p>	
人口	<p>復興計画案という大変立派な案ができたと思うが、人口が減れば税金の面で負担が増えていくことになる。具体的な人口を想定して、たとえば3,000人になればこのような状況になるかもしれないというようなお金の面の案も出してほしい。</p>	
J R	<p>今回の津波ではJRのトンネルがふさがったので波が来なかったが、ふさがらなかつたら第一小学校あたりも被災していた。できればトンネルではなく、道路側を通る線路を敷設するようお願いしたい。</p>	
拠点港	<p>拠点港5港の中に尾浦、出島、寺間、指ヶ浜、塚浜、飯子浜、横浦となっているが、高白は浜として状態が良く候補に入れてほしい。</p>	
防波堤	<p>防波堤がないと風が強いときに船をつないでいるロープが切れる恐れがあるので、湾内に入ってくるのが難しいという話を聞く。防波堤は平成25年度からとなっているようだができるだけ早く整備してほしい。</p>	
下水	<p>第一小学校の下のガードの下のふたが4つ、5つ開いている。大変危険なため、対応してほしい。</p>	

## 第2回公聴会での要望と反映

		復興ニュース第3号を読むと、針浜地区内の山を切り土して高台を形成し、住宅を確保すると書かれている。わざわざ山を削るのではなく、針浜集落の休耕田を活用し、グループホーム建設など、高齢化に配慮した施設を整備することで、女川のセールスポイントとなり、雇用にもつながる。この場所については、複数の地権者が町の復興に貢献したいと言っている。	
<b>4回目. 7月21日(木) 18:00~20:10 女川町復興連絡協議会事務局</b>			
1	観光、ゾーニング	総合運動場の清水地区の移転について、女川はスポーツ観光で成功をしてきた町だと思う。ただし、スポーツと市場（マリナル）との回遊性に課題があった。今回のゾーニングでも同じ轍を踏まないように、例えばソフトボール場はメモリアル公園の背後地に整備するなど、スポーツと観光を融合させて回遊性も配慮したゾーニングが望ましい。	
2	まちづくり	水産の付加価値を高めるためにはまちづくりが重要である。自分たちでどんな町をつくるか、女川ブランドを確立するために、新たに農業による事業を立ち上げようとしている。また、今、FRKでもまちづくりの計画を考えている、委員の先生方にもご覧いただきたい。	
3	産業、水産加工	町の根幹をなすのは水産業、漁業と同様に水産加工業が含まれるのであれば、加工業者のつなががないことが課題である。当面の問題として、数年後にできる水産ゾーンに新たに投資をして、そこに工場を造り、雇用を発生させ、町を元気づけるといった場合に、じゃあ、その間に何をしたらよいのかわからない。 また、無事に工場を造ろうとした場合に、一度被災したところ、水をかぶったところに金融機関が積極的に融資をしてくれるか。危険なところに、リスクの多いところには融資をしない。そのような問題をクリアする必要がある。	

## 第2回公聴会での要望と反映

		<p>少しでも女川町に水産加工業が根付き、残るような政策を取っていただきたい。あと1年間、仮設であっても精算加工ができなければ、3年後、4年後に、工場を造ってやってくださいと言われても、工場の進出は難しいのではないか。</p> <p>そのような状況の中で、女川に工場を進出したい条件として、排水施設1つ取っても、町として自前の排水処理施設を整備して、現状の排水の基準600ppmをすることや、固定資産税の減免など、女川に工場を誘致することのメリットを金額で表せることができれば、既存の水産業者以外も参入する可能性はある。</p>	
4	産業	水産エリアの中で排水処理をする設備を整備していただきたい。計画の中にも取り込んでいただきたい。	
5	放射能、風評問題	放射線の規制値が500ベクレルであるが、それ未満であっても検出されてしまうと商品としての価値が落ちてしまう。先生方には測定をするだけでなく、消費者に対して数値の意味をわかりやすく伝えるということもお願いしたい。	
<b>5回目. 7月22日(金) 10:00~12:00 旧女川第三小学校多目的ホール</b>			
1	集約化	集約をしているのが北浦だと2カ所だけになっているが、これはなぜか。人口からすると北浦の方が五部浦より多い。それなのになぜこういう査定をしたのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集約化についての記載は削除。</li> <li>・代わりに【短期対策】として</li> </ul>
2		<p>漁港を効率化するために集落を集約するというのとは別に、漁村集落をどうするかということを考えてない部分があると思う。女川の町としては漁村集落を大切にするという考えも入っていないように感じる。町の水産業を担う集落を残して、なるべく人を少なくしないように、沿岸養殖業を維持するという考えが足りないのではないか。</p> <p>また、海の周辺の環境の維持、人命の救助、例えば何か大きな船で事故があったときに、漁村の近くに住んでいればすぐに対応できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③新たな漁村づくり</li> <li>④個性ある漁村の復興</li> </ul> <p>を明記させていただきました。 ⇒62ページ</p> <p>3. 住みよい町づくり《住環境》 (3) 離半島部の安全な居住地の確保</p>

## 第2回公聴会での要望と反映

		<p>が、その部分が今回の集約化によって損なわれる。</p> <p>行政サービスに関しては、例えば5つの漁港を3つにするとか2つにすることによって、違いが明確に説明されていない。</p>	
3		<p>漁業集落は必ずしも専業漁業者だけではない。それでもこの集落に住み、ある程度定年になったら魚介類を捕って生活するとか、それも含めてここがいいという人もいる。例えば漁業集落に住んで原発に実際に勤めている若い連中もいる。浜で養殖業をする、もしくは町を離れて他の仕事をするという2つ選択肢があったら、後者の方を選択する可能性が高くなる。</p> <p>つまり、集約化した方が後者になってしまう。高齢者ももう1回漁業に就くかどうかと迷っている人は、娘さんが他に嫁いでいたら、そっちの方に行くことを選択する。ただ集約化がなかったら、老後も前のところの近くの高台に住んで、養殖業はしないまでも、海のもの、磯のものを捕ったり、ウニを捕ったりして暮らしたいという人たちがいる。集約化によって、その人たちは外に出る可能性が本当に高くなる。</p> <p>また、明確に行政サービスがよくなるということが伝わってこない。</p>	
3	町づくり	<p>出ていった人を戻ってこさせるような施策も必要ではないか。</p>	
4	雇用	<p>このままでは結局、子供がいる家庭は生活のために女川を離れていく。そういった中で、早く町の意向に沿って進めてもらった方がいいように思う。</p>	
5	産業、漁業	<p>漁業が衰退して過疎化しているという話だが、若い人たちも集まってきている。漁業はこれから伸びていくため、そういう考えで復興計画を作ってもらいたい。</p>	



## 第2回公聴会での要望と反映

6	町づくり	<p>私は秋田の方に避難していたのですが、子供が仮設に入ったとき、竹浦にまた帰りたいと、そういう声があった。それで私たちの方も、復興計画と復興委員会をつくり町にお願いしようと考えた。そして、とにかく高台は当然です。これは明治28年、そこからも大変な津波があったということの本を見た。やはり避難道というものが一番大切。何かあった場合にはすぐとにかく逃げるという話を、竹浦の復興委員会で練っている。</p> <p>人がいないと何でも廃れてしまう。我々は女川町を捨てるわけではない。女川が好き。竹浦も好き。漁村から人がいなくなったら漁村は廃れてしまう。自分達はずっとここを守りたい。</p>	
7	産業、漁具	<p>心配しているのは、漁具の確保。漁具の場合は激甚災害で用意するものは国、県で3分の1ずつだが、最初は個人で出してくれという話。余裕がなくて今から漁業を営もうとしている方は大変。今から漁業をやろうと思っても、他へ行って日雇いなどでやっていくほかないという考えも出てくる。</p>	<p>漁業従事者が個人経営であるため、支援が難しい問題。</p>

## 寄せられたパブリックコメントと回答

	項目	意見	件数	対応・回答
<b>1.住宅、土地に関すること</b>				
1-1	高台移転	竹浦全員の希望で、墓の下の国道 398 の高台へ移転したい。遠いところでは海に通うのに大変で、海が見えないと作業するのに支障をきたすので、海が見えるところが一番良い。竹浦から離れたくない。地元に住居場所ができれば、最終的には地元に戻って一生過ごしたい。子供たちが実家として戻る場所をつくりたい。これまで一緒だった人たちと、これまで以上にいい地域社会をつくりたい。	11	<p>復興計画では、町中心部、離半島部とも、その地域で暮らす町民の生命と財産を津波被害から守る(津波被害軽減)ため、居住地を安全な高台へ移転することを掲げています。</p> <p>今後、津波遡上、標高等の調査結果を踏まえ、地盤高を決定し、土地の造成や平地部におけるかさ上げ(盛り土)などを実施していくこととなります。</p> <p>さらに、町民皆様の意向を調査し、居住地の規模、住宅の戸数等を検討、宅地整備などを行うこととなります。</p> <p>現在、離半島部には、各浜に番屋の設置を進めております。住居は離れていても、番屋をうまく活用していただいての就労の仕方等、町と各集落がよりよい意見・アイデアを出し合っていく必要があります。</p>
		高台移転 尾浦、竹浦、桐ヶ崎の3部落が三小付近に集約することは不都合で、台風、低気圧等の天候が悪いときは海の見えない奥では見張りができず、船も流出する恐れもあるので、竹浦区の総会では、全員が現在の高台への移転を希望する。	1	
		復興計画通りの高台移転に賛成する。若者(息子)が漁業を営む上で、守るべき家族のことを考えても飯子浜高台への集約移転は私どもにとっても素晴らしい案。一刻も早く生まれ育った飯子浜へもどりた。	1	
		一日も早く石浜地区の山を調査し造成をお願いします。災害公営住宅、町営住宅を建設してほしい。	1	
		高台集落は横浦に決定してもらいたい。	1	
		御前浜の高台を造成して家を建てたい。	7	
		住宅は現市街地周辺の山を新たに造成、切り土に賛成。	1	
1-2	集落の集約化	1か所への集約化に賛成。10年後、20年後の女川は人口はかなり減っていると思うので、それを防ぐには、一つの大きな集落にしないと若者はどんどん女川(五部浦)から出て行ってしまふ。海の区分は、今まで通りの維持ができるのであれば、集約してもなんら影響はないし、若い人たちには部落同士の文化的な違いなどなく、それなりの付き合いがあるので年配の方々とは違う。まだ独身の若者も少なくなく、結婚するには住環境がとても大切。小さな部落には嫁は簡単には来ないと思う。長い目で見たとき、どう考えてもみんな一つの場所で生活していった方がいい。人がいてこそその漁業権。人が集まって初めて、復興できると思う。今の年配の方々の意見は、自分のことを言っているだけで、次の世代、次々世代のことは考えていないように思う。「どうせあと10年もすれば、漁業をやめるからいい」というおじさんの声も聞いた。	1	<p>平地部に限られた離半島部は、近隣の高台に新たな宅地を造成する必要があります。</p> <p>さらに、今後予測される世帯数の減少等を考えると、新しい視点でのコミュニティのあり方等を十分に検討していく必要があります。</p> <p>しかしながら、そこに生きる人々の強い意志と願いも尊重されるべきものとも考えます。</p> <p>町と各集落は、今後とも話し合いの場を設け、新たな漁村像、地区協働のまちづくりに取り組みます。</p>
		公営住宅をお願いしたい。道路を一日も早く直してほしい(将来的にはトンネル化)。病院、公園を作してほしい。その他施設も充実。コンビニ、飲食店も参入してもらいたい。車、リフト等の修理工場、鉄工場、造船場(船下工)を充実。		

## 寄せられたパブリックコメントと回答

		10年後、20年後の五部浦のことを本気で考えるのならば、1点集約化しインフラの整備を進め、市街地への交通面を強化し、過疎化の防止ではなく人が集まり発展的な集落を作るべき。地域住民の納得を得るためには、住居問題と地先権問題を完全に分けて、集約後も現在の地先権が永久的に守られる確約が必要。現在、集約化の反対者は年配者がほとんどで、次世代、次々世代のことを本気で考えているとはとても思えません。次世代のことを本気で考えるのならば、地先権を守りながら、居住区の一点集約化しかない。	1	
		高台集約化は必然だが、大規模集落か小規模集落化か従来の村落コミュニティの生活現状を再考し、漁村集落村民の大多数の願望である各地域高台移転の方が早期実現、低財源を計れる場合もある。よりよき復興のため再考、優先順位見直し等願う。	2	
		集約の集約化に疑問。居住地の高台移転案には賛同する。しかし集約の集約化には納得できない。地区住民の声が反映されていない。地質面の説明がほしい。	1	
		町に提出した要望書がどうしても受け入れられないのであれば、竹浦と桐ヶ崎の集約化を希望。歴史的にも伝統的にも二つの部落は友好、協力関係にあり、集約には抵抗がないと考えられる。 五部浦地区3か所に対して、北浦地区2か所の集約について、どちらも人口、世帯数は大差ないので、両方3か所にする方がバランスがとれる。	2	
		単に1か所に集合するのが理想的とは思えない。人口の減少は集合するだけで止まるものではない。地域の産業をしっかりと起こすことこそ、それを止める手立てである。	1	
1-3	集約化と産業	住民の意見は理解できるが、千年に一度といわれる災害を受けての復興計画にこのような感情を受け入れるわけにはいかない。配慮すべきことは、生活に直結する漁業権の問題。五部浦地区の漁業権を一本化することで解決すると考える。岩手県宮古市重茂地区では漁船の共同利用等で集約は一本化し、移住を考えていた若者も残った例がある。	1	漁業従事者の皆様のご意見をじっくりと聞きながら、町としても一緒に考えて取り組む問題と受け止めておりますが、最終的な決断は、従事者の皆様であると理解しております。
1-4	復興住宅 公営住宅	集約は公営住宅でお願いします。	18	今後、町民皆様の意向を調査し、居住地の規模、住宅の戸数等を検討、宅地整備などを行うこととなります。 高齢者や要介護の方等に配慮しながら、早期着工に向け、取り組んでまいります。
		仮設に入居しているが、老人または介護を必要とする人にとっては不便。早く復興住宅(一戸建て)または持家を作れるようにしてほしい。	2	
1-5	戸建て	当面生活が安定するまでは一戸建てで借家がよい。	1	復興公営住宅をご検討ください。
		一戸建てを建ててもらいたい。	3	基本的には町として個人の住宅を供給することはできません。住宅支援制度、融資制度を活用していただいてのご検討をよろしく申し上げます。町としても二重ローン対策等必要な措置を講ずるとともに、新たな支援策等の創設などについても、国・県に働きかけてまいります。

## 寄せられたパブリックコメントと回答

1-6	土地	200 坪くらいの土地がほしい。	1	町から個人に対しての土地の供給はできないことになっています。
		(津波のあがった) 住宅地は買い上げになるのか、又は代替地としてこれから造成する宅地を代替えとしてもらえるのか？	1	いまだ国からの財源が示されないうちは、はっきりとはお答えできない現状です。ただし、財源が決まりある程度の方向性が示せるようになりましたら、改めて住民のみなさまにご説明させていただきます。
		私有地の早期借り上げを望みます。	1	
1-7	住宅用地	平成 25 年度までに現状の浸水箇所を見直し、鷲神バイパス第一消防分団車庫位置程度を住宅地として望ましい。	1	町中心部の津波被害の軽減のためには、低地部を盛り土し、新たな宅地を造成する必要があります。町は、宅地、漁港、商店会等の地域の再整理を行い、安全性と利便性を考慮した住みよいまちづくりをめざしてまいります。
		全国液状化問題で騒がれているので、盛土したところには絶対家を建てません。	2	盛り土高等については、今後の検討課題と認識しています。奥尻や雲仙などの先事例を参考としながら、地質等を十分に調査研究して決定してまいります。専門家からは、盛り土は、十分な排水設備等を施しても5m程度との見解もあり、そうした意見を伺いながら適時的確な施工を心掛けてまいります。
		山を切り開いて造成した旭が丘、荒立、内山等地震による亀裂や石垣の崩落、ブロック塀の倒壊等多々、地震に対しての不安が多い。(今回のような津波は何十年、何百年に一回だが、地震は年何回も来る)。	1	
1-8		2 年待てば、同じ場所とは言わないが家を建てられるのでしょうか？	1	先行地域として、総合運動公園跡地を住宅用地として開発する計画をしており、もしそれが決定した場合は、約2年後には、一部の地域において、住宅を建てられるようになる見込みです。
		都市調整区域外の地区で全壊家屋を居住宅とすることに対してどのように対応するのか。	1	町として個人の自由を侵害することはできないので、計画の実施内容を十分にご説明させていただいた上で、あとは個人の意思を尊重します。
1-9	住宅再建時期	今、町民が知りたいのは 10 年後、8 年後ではありません。まず町民が町から離れないように仮設住宅を急ぐべきである。避難所にいる人たちが仮設に入れなくて遠方になってしまう人がたくさんいる。町から人を出さないためには、半年後、1 年後などの具体的な計画を町民に伝え、この町にいても安心して生活できるというものを見せてほしい。	2	<p>応急仮設住宅の建設については、引き続き早期の完成をめざし努力してまいります。</p> <p>いかに素晴らしい復興であっても、町民の皆さんが実感できない復興は、この町にとって、真の復興とは言えません。これからも、幾多の困難があるかと思われませんが、これらを乗り越えて、この町を再建したいすべての町民が、家族や地域との繋がりの中で、いつもの日常生活に喜びを感じる地域をつくるのが、復興まちづくりの大きな前提であります。</p> <p>復興計画は、全町民の英知と、行動により実現するものと考えます。計画をより良いものとするため、町内各種団体、町民の皆さんとの協働により、女川の良さを再発見、再認識するとともに、「女川らしさ」とは何であるかを考えていきたいと思っております。</p> <p>町を挙げて全力を尽くす決意ですが、町民の皆さん一人ひとりが、新しい女川に向けて何ができるかを真摯に考え、取り組んでいただくことも不可欠です。町民の方々とともに協働のまちづくりを進めていくための場づくりにも取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>町民の皆様におかれましても、町を再生する構成員であるという自覚のもと、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>
1-10	仮設住宅	現在、第一保育所に避難しており、8 月で閉鎖してしまう。もし仮設に当選しなければ、次の避難場所がわからず先の見えないこの不安な気持ちが町長にはわかりますか？ 復興、復興と言いますが住む場所のない私たちには心に響きません。	1	

## 寄せられたパブリックコメントと回答

2. 産業に関すること				
2-1	産業	産業発展には、まず漁港の緊急、応急整備を着工し、各漁港による水産物早期安定水揚げ出荷等ができれば当然、関係産業は再生、復興する。2～3年後、各漁港の現状将来性、定住等を考慮し拠点港の選定を行い無駄な財源を極力さけるべき。まずは漁港の生産性の向上に投資すべき。	2	<p>土木構造物等の復興は、本町の基幹産業である水産業の再生に不可欠であり、新たな港町づくりの根幹となる対策です。</p> <p>復興計画では、緊急対策として、地盤沈下の影響を考慮したうえで、津波、高潮(冠水)、高波対策として護岸のかさ上げ等を実施します。</p> <p>湾口防波堤については、外洋からの波浪、津波制御を目的とし、早期の整備をめざします。今後とも事業主体である宮城県に対し、漁港機能の早期再開に向けて緊急整備を要請してまいります。</p>
		護岸や係留岸壁の応急整備と、仮設でもよいので消波ブロック等の防潮設備の設置が急務である。先の台風で流された船もあり、毎日船を失う危険にさらされている。津波で漁船を失った人には保険や再建のための優遇措置があるが、船を残した人にはなく、漁具も失い漁の再開の目処がたたない。港町の成り立ちは、漁船が入り、仕込みや休息のため周囲の商店にお金が落ちてにぎわっていくのはどの時代も同じ。活魚や鮮魚出荷、水産業者が立ち上がる最前最速の手段であると思う。それに伴い周囲の各商店も追随して発展できるから。できれば今夏中、報道機関を通じて周囲の漁業者に明るい話題と刺激として伝えてほしい。	1	
		年内にさけますふ化場再開を要望。ほかの場所から稚魚を購入してでも、放流事業再開をお願いしたい。	1	ご意見として承ります。
2-2	雇用	現在の復旧作業が何処で、誰に、いくらのお金で発注しているのか不透明。本気で雇用創出、地域再生活動をしてきた団体に何の話も要請もない。全壊した水産会社の立ち上げ見通しも少ない。働く職場の見通し立たない。	1	<p>水産業が基幹産業である女川町にとって、漁港の整備は緊急に取り組まなければならない課題であると認識しております。早期復興に向け努力してまいります。</p> <p>拠点港については、残存する漁船と港の大きさ等考慮し、尾浦、出島、寺間、指ヶ浜、塚浜、飯子浜、横浦の7つを選定し、優先的に復旧に取り組みます。</p>
		企業活動が早くできる施策を早く作成をし、若い世代の流出を防ぐことを考えてほしい。若い世代は毎日のように教育費や生活費に困窮している。町で若い世代に助成することや、無利子で貸し付けをすることを本気で考えてみては？10年女川町に残る人には貸し付けの年額を助成するなど大胆に。一度女川を離れた人は戻ってこない。従来の貸し付けや助成ではなく、未来のために新たな女川町独自のものでよいのではないか。これからの人口減少、産業の衰退を危惧している。最後に、町民に対しての説明が不足している。	1	<p>復興計画では、震災により新たに発生する事業を活用して、地元住民の積極雇用を推進し雇用を確保するとともに、復興過程において持続的な雇用につながる新たな産業、地域づくりを推進します。</p> <p>また、雇用に併せて、地元資機材等を積極的に活用、調達することで地域経済の活性化を図ってまいります。</p>
2-3	若者雇用	若いひとたちに働く場を与えてほしい。	1	
3. 復興計画、インフラ整備、ゾーニングに関すること				
3-1	高潮対策	津波からの復興は相当綿密に計画されているが、地盤沈下により毎日浸水する高潮対策が見えない。	4	<p>復興計画では、港周辺部の土木構造物等の整備は、安心・安全な港町づくりの観点から重要な施策であると認識しております。地盤沈下を考慮したうえで、津波、高潮(冠水)、高波対策としての護岸のかさ上げ等を実施してまいります。</p>

## 寄せられたパブリックコメントと回答

3-2	道路	復興の最優先は道路、交通網の復旧、整備、398号線はおのずと幹線道の増設等により交通渋滞の緩和により町民生活、復旧・復興工事、産業の発展にもつながる。国道398号の早期復旧。	4	<p>住民の避難活動、各種応急活動に道路の確保は不可欠です。平常時の物流、町民生活の利便性にも配慮し道路整備を図ります。</p> <p>新たな道路整備にあたっては、避難時の道路の混雑を避けるため避難路としての道路の拡充、拡幅をめざした道路整備を計画します。</p> <p>また、町外へ通じる道路は少ないことから、町全体が孤立しないよう国道398号以外に石巻に通じるルートを確認します。</p>
		町営住宅をメモリアル施設とするならば、女川新田への真野林道、新田～稲井へのルートが必要。	1	
		三陸道に直結する道路の新設 もし女川原発の予備電源がダウンしていたら、道路事情（398号線）を考えると福島以上に対応が難しかったと思う。災害避難道としても398号線のバイパスではなく、三陸道に直結する道路が必要。	1	
		現在のバイパスを第一保育所付近より崎山まで10メートル高の道路とする（国道をそのまま広くする）。	1	
3-3	災害遺構、メモリアル	生涯教育センターを壊さないでほしい。津波の怖さ、ものすごさを将来の世代に伝えていくための遺跡にしてほしい。そして、将来にわたる教育のセンターにしてほしい。	1	<p>復興計画では、災害による犠牲者を慰霊し、その記憶や教訓を将来にわたり伝えていくため、被災した施設等を災害遺構として保存することを計画しています。</p> <p>新田地区の町営住宅は、津波遡上の痕跡をとどめる災害遺構として保存し、防災教育の場としても活用することを計画しております。</p>
		転倒ビルは素人が見ても手抜き工事。一般鉄骨等は無事なのに、建築者の恥さらしである。また、町営住宅のメモリアル施設案は、住居として再利用すべき。メモリアルとして残すのであれば、役場庁舎がいいのではないか	1	
3-4	跡地利用	高台移転後の跡地利用は公共農地としての利用が考えられる。このことによって高齢者の働き甲斐の創出や、自給への推進につながる。	1	<p>復興計画では、高台移転後の跡地利用についても、住民の皆様のご意見を伺いながら検討していくこととしています。</p> <p>ご指摘のとおり、農地利用としても考えられます。復興計画においても、今後、農業、林業のあり方について検討することとしています。</p>
3-5	防波堤	防波堤は、湾が細くなる現在地では用をなさないと思われるため、この際思い切って、右側は原発の外側、左は寺間の四子の崎に設置し女川湾内への津波の流入を抑える。	1	<p>湾口防波堤については、外洋からの波浪、津波制御を目的とし、早期の整備をめざします。今後とも事業主体である宮城県に対し、漁港機能の早期再開に向けて緊急整備を要請してまいります。</p>
		湾口防波堤の再整備。	1	
3-6	計画	計画の冒頭に全体としてどのような復興イメージをもって復興にあたるのか、背景や現状、問題点とともに記載があると、当事者間で共通認識が生まれ、効率的に進行できると考える。	1	<p>ご指摘のとおりです。復興計画では、計画策定の趣旨や位置づけ、被害概要、被害の特徴、教訓などを分析し、それらを踏まえた復興のための基本計画を示しています。</p> <p>今回の震災は、被害が広範囲で甚大です。これまでの事業制度や財源規模では復興は不可能です。阪神淡路大震災では、震災特例を用いた土地区画整理事業などが行われました。</p> <p>町としては、再建者によって受けられるメリットに差が出ないよう、また、復興のスピードアップという点にも十分留意し、適切な方策を提示し、皆様の協力のもと再建事業の実現をめざしてまいります。</p>
		現時点で国の予算等が不明で、原案は土地の所有者に対する了解（買い上げ、等価交換等の方向性）がなさらなければ、計画は進むかどうか疑問である。	1	



## 寄せられたパブリックコメントと回答

		今回の津波は人命を失ったことがあまりに大きい。避難できる高台、高い構造物は必ず必要である。現計画の5年～8年では高齢者の生活意欲が失われる。	1	復興計画においては、より安全な避難先、避難ルート、避難ビルの確保と整備を図ってまいります。
		次世代、次々世代が住みたい町づくり。自助・共助・公助の推進。集落ごとの屋根の色、壁の色の統一。	1	さらに、住宅再建が困難な方向けに災害公営住宅の整備も行います。 町は、宅地とともに被災した役場等の行政機能の移転や観光、商店会等の地域の再整理を行い、安全性と利便性を考慮した住みよいまちづくりを進めてまいります。
		観光の5大要素は、1見て感動、2うまいもの、3心と体の癒し、4交流と体験、5楽しみながら文化・歴史などの理解を深める。これらを備えたツアーはヒットし定番になる。言葉だけではない、本当に魅力ある（住んでみたい町）を創っていけば、自然と観光客も増えるはずである。	1	ご指摘のとおりです。復興計画では、本町の豊かな自然環境や安全性・利便性とともに居住地が持ち合わせる家並みや生活景観を考慮した魅力的なまちづくり、多様な世代の生活要求にこたえる住宅地づくりを進め、女川のまちそのものが地域資源となるようめざしています。
3-7	人口	復興基本人口は8000なのか、6000なのか？早々の住民意識調査を。	1	現在、早期の住宅再建に関する住民意向調査の実施に向け準備作業を進めております。
<b>4. 原子力発電所に関すること</b>				
4-1	放射能、脱原発	脱原発を推進し交付金に頼らない女川町の基幹産業である水産業に活路を見出す。町は基幹産業である水産業を中心とした町づくりに方針転換するべきである。	1	引き続き安全を目指した取り組みを進めるよう事業者等に要請していきます。 また、復興計画は町民の生活基盤に関する項目に限定し、発電所との共生については別途検討します。
		先日の公聴会で町長は復興計画と原発の問題を同時に扱うことはできないと言ったが、脱原発「女川原発の廃炉」なしには復興を遂げられないものと考え。原発に依存しない地方自治「女川原発の廃炉」の英断を強く要望する。	1	
		福島放射能汚染が宮城にも拡散しているのに、原子力発電所のある女川町が現在将来を見通した何の対応も示さないことへ不安。	1	
<b>5. 防災</b>				
5-1	避難ルート、防災無線、避難訓練	今まで避難地の指定になっていた旧役場庁舎の高さまで全体を嵩上げし所有者に引き渡しできるように早急に住居、商店、工場等復旧させ入り口の流失をおさえる。	1	津波対策は、ハード・ソフト両輪で確立すべき対策です。特にソフト面では、避難対策が最重要であり、住民の避難行動をより確実にするため、町は、関係機関や町民と連携し、情報伝達体制、避難ルート、避難誘導等の対策を構築します。 まず、何よりも、津波のおそれをあらかじめ知っておくことが重要であり、いざ大きな地震を感じたら高台へ逃げるのが津波から命を守る大前提です。予測される非常の事態を想定した命を守る迅速かつ的確な判断、行動が求められます。住民レベルでの津波避難意識の向上を推進します。
		津波避難対策の避難先、ルートの早期見直しを要望。津波発生時の情報伝達は防災広報無線で特例の緊急（合図）等を検討願う。全町民参加型の避難訓練を定期的実施。広報車による巡回。	2	
		車ではなく徒歩でも逃げられる避難経路を考えてください。車で逃げ渋滞に巻き込まれて津波にのまれた人を何台も見た。	1	
<b>6. その他</b>				
6-1	外部への発信力	女川さいがいFMの番組の内容が非常に話題になっている。今からでも遅くはない。女川町の話題を全国に発信すべき。	1	本震災でこれまで整備してきた都市機能の多くが壊滅的な被害を受けました。情報発信の中核を担う役場機能の早期回復を図り、適時・的確な情報の発信に努めてまいります。
6-2	生活	水洗トイレの整備。	1	今後のまちづくりにおいては、安全性と利便性を考慮した住みよいまちづくりをめざしてまいります。

## 寄せられたパブリックコメントと回答

		御前浜共同テレビアンテナが途中で断線してテレビが見られない。早期復旧を。	1	本震災により、これまで整備してきた地上デジタル放送受信施設等も大きな被害を受けました。現在、町として、国・関係事業者へその対応について要請をしております。
6-3	自然環境	水産業・養殖業の復活には、湾内だけでなく周辺の海や陸の生態系が健全に回復することが重要。そのために、これら生態系回復力を妨げるような要因（瓦礫、土砂流入など）は極力抑える対策があると、復興後の持続的な漁業の推進に有効と思われる。	1	本町は、多様な海洋生物に恵まれ、長年、大学の研究機関を中心に調査研究、海洋教育に取り組まれてきました。 しかし、本震災の津波で研究施設も大きな被害を受けました。復興において、大学等研究機関とも連携し、研究施設の復旧と充実化を図り、本町の基幹産業である水産業をはじめ、海洋生物研究や津波研究、漁村等地域研究等の国内でも有数の学術研究拠点としての再興をめざしてまいります。
		御前湾の養殖施設の海中・海底の魚群探知機や水中カメラ等で調査をお願いしたい。	1	
		津波減衰対策としての緑地について。緑地がもつ水の浄化や地下水涵養、レクリエーションなどの機能を最大限に活かすため、生物多様性に配慮した緑地が望ましい。これにより、水産業の根幹たる海の生態系にもプラスの効果が見込まれる。地域に元から生息する植物を用いて緑地化することが望ましい。	1	
6-4	行政	集落ごとの建設会社入札制度の導入。	1	ご意見として承ります。
6-5	災害記録	印刷物だけでなく、映像、メディアでの作成も重要。	1	学校教育でのプログラムに、今回の震災の教訓、防災や津波に関する知識などのテーマを導入いたします。また、防災教育のための副読本等の作成を検討しています。
6-6	ご要望	私はあまりよくわかりません。安住町長さんに良い女川になりますようよろしくお願いいたします。	1	町の皆様とともに、住みよい町づくりができるよう、努力してまいります。
		復興計画案には賛成ですが、もっと案を練り、より良い町づくりをしていただきたい。	1	
		住みよい女川町にしてください。	1	
合計			115	

### ※項目ごとの合計件数

